

## フィリピンボランティア・トントン君募金 報告書

### \*これまでの経緯\*

4月24日～27日までのウッディチキン・フィリピンボランティア第一隊で、バイク事故で全身麻痺になったミデル君から「トントン君の所へ行って欲しい」と言われて神戸からたまたま来ていたし西村先生と会いに行く。初対面のトントン君はチンピラの凶暴な眼。このままでは助からないと直感する。まず感謝する心を芽生えさせねば…。

トントン君は昨年12月23日に彼女といてる所を別のチンピラに銃をクビで撃たれ病院に運ばれたが全身麻痺と銃弾がクビにまだ残っていて首の左側にコブシくらいの動脈瘤が出来ていた。 写真：たおるをかぶっているのが西村先生西村先生が首の弾丸を除去。



はじめてあった時のトントン君

### 第二隊：タイガー上田団長隊が6月3日～6日訪問



第二隊のメンバーがトントン君の目を変える。トントン君の目から邪鬼が去りスゴクいい目になり周りの人達に感謝の言葉を投げかけ、そして生きることへの希望が生まれる。

6月9日富田江里子さんからトントン君の手術費用の支援依頼が来る。

ちょうど6月12日にウッディ札幌があったので主要な幹部メンバーに相談し支援を決める。断食メンバーのアパカバールの中野さんにも相談し呼びかけをお願いする。

6月11日富田一也さんがマニラ中のあらゆる病院を回ったがすべて断られる。

トントン君と家族は、二日間、暑いマニラの病院の廊下で放置される。行き場がない状態でほとんどの医師があと2週間持たないだろうと見放す。6月28日にまた来いと言う医師もいたが、こういう医師の発言は信用できないのでトントン君自身がもうマニラにはいかないと言う。

7月12日夜、大出血。輸血の血液が無いという理由で救急車で病院を転々。最後に行き着いたのは依然ひどい目に合った公共の病院。そこで緊急手術。

#### 今回のツアー

7月18日12時55分 関空→16時フィリピンクラーク空港

→ホテルチェックイン、18時に病院へ

18時～20時：病院にてトントン君、お母さん、叔父さん、を労う。

病院の事務所に本来は明後日に来るせいを我々が日本に帰ってしまうので明日に請求書を発行してもらうように頼む。トントン君は集中治療室から出たばかりなのに普通食を食べられるようになっていたことに驚く。富田一也さんに募金100万円は現金で持ってきてくださいと頼まれていたので夫婦で小分けして持って行った募金を手渡す。

#### 募金の内訳

全国の皆さんからのトントン君募金 69万円 + アエタ族支援募金 39万円 = 100万円

韓国コアファースト・オム代表 10万円 + ジェイドヘア・キム代表 2万円 = 12万円

合計 112万円



7月19日

朝8時30分ホテル出発

9時～10時トントン君の病院

病院の事務所から入院費 46 万円の請求書。「その金額ならこの後も個室で行けると想っていると…」この金額プラス、医師に手術代を払わないといけないと連絡が来る。「えっ？」フィリピンの病院では医師は個人事業主で病院から外注で仕事を貰うシステム。病院の入院費以外に医師から請求が来る。担当した医師は3人。その請求額が午後にならないと分からない。とにかく46万円を銀行に行きフィリピンペソに換金。待っていても仕方がないのでミデルの所に向かう。

一也さんが現金で100万円持ってきて欲しいといった意味が分かって来た。

現金を病院側に見せなければ信用してもらえないのだ…。

トントン君の手術も日本人がバックについているということで可能になったが、貧乏人のフィリピン人は手術もしてもらえず見殺らしい。フィリピンでは貧乏人の命は紙屑どうぜんらしい。

ミデル君に逢いに行きしばらく話す。タイガー上田さんがミデル君の CUT を



元気なミデル君に逢う

ミデル君は傷口も乾き次第に小さくなっていた。昨年11月に訪問した時は命も危ないと言われていたが、すっかり元気！

絆サロン：12時30分～16時



タイガー上田さんがカラー技術指導

16時30分～18時30分 トントン君の病院

3人の医師からそれぞれ30万円＝合計90万円の請求書が来る。

病院の費用46万円＋医師3人で90万円＝136万円

えっ！100万円で足りない！

どうやら日本人がバックについているので高額を吹っかけてきているようだ。

日本の病院では考えられない…。日本人がバックについているので手術までしてもらえたが今度は逆に日本人がついてるので金額を高く言ってくる。

これがフィリピンか…。

とにかく残りの日本円もすべてフィリピンペソに変えてトントン君のお母さんに託す。

値切るしかない！トントン君のお母さんに「日本人はもう帰っていない。お金は100万円しかない」これをお願いしますと頼むように指示。(韓国の12万円は予備に)

我々が帰る頃、3人の内一人の医師は18万円がいいと言ってくれた。という連絡があった。

まあこれならあとの二人も同じ金額で言ってくるだろう。18万円×3人＝54万円

と病院の費用、46万円。ジャスト100万円！

残りの治療費は日本に帰ってから考えることにする。

結果的にトントン君の担当医は我々の予想に反しかなりいい加減な医師だった。

手術もトントン君が死ぬだろうつもりでやっている。首からみぞおち迄切って左の動脈をふさぎ瘤を切除し縫い合わせただけだろう。フィリピンでは医師が手術の内容を話す必要はないから詳しくは今は分からない。医師にあったが若くていい加減なお金を積んで医師になった感じありありの医師だった。でもそれが幸いした。マニラのちゃんとした医師は全員「これは手術しても無駄だから」と言って断って来たのを、この訳が分かっていない医師だから手術してくれたのだらうと思う。逆にちゃんとした医師が救急病院にいたら手術してなかったのではないだろうか。ある意味、いい加減な医師でラッキーだったのかもしれない…。今回のツアーでボク達はフィリピンの医療の現実を垣間見た。そして命の重さが日本とフィリピンでは全然違うことを知った。

改めて日本のありがたさを感じた。

7月20日

3時30分ホテル出発→クラーク空港4時40分

クラーク空港7時→関空11時40分

無事帰国